女子青年界第十四巻第九號（毎月一回一日發行）
大正六年十月一日發行　大正六年九月二十八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十四巻
十月號

要目

何時使つても
新鮮な感じのする
ライオン歯磨は



最も確實な衞生上の効果の外に、どなたにも好かれる優雅な香と歯觸とを持つてをります。

殊にライオン歯磨の煉製は上品で使ひ心地よく、またライオン歯磨の水製は簡便で含嗽用に適し、一は旅行にも携帯すべく、他は食後寝前にも試むべく、文明人の日常生活に無くてならないものでございます。

東京本所區外手町
ライオン歯磨
ライオン石鹸
本舗 小林富次郎
支舗 大阪市南區博労町二丁目
名古屋市桑名町四丁目

(819—6)

大正六年十月號

女子青年界目次

第十四卷第九號

Magic Lantern Slides
a Specialty.
Colored Bromide Postal Cards

(Large collection of pictures of Japanese scenes and customs.)

Y. WATANABE, PHOTOGRAPHER

No. 44 Bentendori, Yokohama.

◎人像撮影
最新式美術的寫眞を調製す

◎出張撮影
遠近不拘精ふ御便利を計り貴需に應ず

◎現像及び燒付
迅速且つ叮嚀に御用命に應ず

橫濱市辨天通三丁目四四
渡邊寫眞館

FRAMES, PICTURES, POST CARDS.

OKAMOTO, CHIKYU-DO & CO,

OGAWAMACHI ST, TOKYO, TEL. HONKYOKU- No. 1100.

SOLE AGENTS IN JAPAN

Cosmos Pictures Co. & National Art Co.

New York, U. S. A.

コスモス繪畫會社◎米國◎ナショナルアート會社

日本總代理店

額緣繪畫繪葉書輸出入

岡本地球堂商店

神田區小川町通

振替東京一九七〇番　電話本局千百番

付七

宮内省
各宮殿下 御買上 八回

桑港萬國大博覽會 銀牌受領

於博覽會共進會 金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐國産

御申越次第商品目錄進呈

水晶細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
装身具
床置物
珠數

指環 中差 簪 櫛 根掛 エリ止 帶メ 守玉 ピン カフス釦

印傳袋物

二ッ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐 叺 御殿持 巻莨入 火の用心 文人持

一水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り御好みに應じ如何様にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町
電話百〇二番
振替口座東京五〇六四番

第十四巻 十月號

女子青年界

大正六年十月一日發行

會説

信者の性格

河井道子

某婦人會の席上で牧師が、一體昔の武士には特徴の有つた樣に、我々基督者に性格が有るとすれば其性格は何であらうか、との質問がありました。勿論信者は未成品の樣な者で、完成した性格は具備へて居りません。乍然信者の特性として追々世間も許し自分達も合點して居る處は、第一基督者は僞を云はぬ事、第二基督者は親切なる事、此二ヶ條は漸く認識される樣に思はれます、或時紙屑買が屑を買に來り目方を掛けて居た處が主婦が「御前さんの量は大丈夫かね」と問ふたらば彼は大喝一聲「私は僞を申しません基督者ですから」と申したさうです。曾て私が西洋人と共に毛皮店に行き白狐の皮を求めました處主人は其品質の最良なるを説明して「私はクリスチャンです」と申した事を記憶して居りますが此も私は虚言を云はぬと申す代名詞に使用されたのだと思ひます。私共が旅行中未知の人々に紹介された時でも先方が信者だと聞くと十年の知己の如く親しき心地のするのも、又下女下男を傭ふにも信者と知

ると安心と思ふも皆御互に僞がないと許し合ふからではありますまいか。

又親切と申す點に付きても確に信者の特徴として認識されて居る樣であります、本會の修養會に列席されし姉妹方の印象として尋ねますと「皆さんが本當に御親切であつた事」と返事なさいます。先日も雨天に府廳　用務あつて出頭致した處、草履がなくて閉口して居ますと小使が如何にも親切に探してくれ、又部屋など丁寧に敎へて呉ました、今迄御役所に行く度に小使の横柄な言語動作に慣れた者には此親切な小使は必ず信者だらうと心中に思はせたのであります。何も信者外に親切な人が無いとは申しませんが信者は親切であるべき筈といふ自然の感が親切な人を見ると信者かしらと思はせる樣になつたのであります。或人の實驗談に自分が汽車で一寸親切な事をしたら傍の人が突然貴方は信者ですかと尋ねたので、未ですが近々中になる處ですと返事したとかであります。斯世間は私共に眞實と親切とを期待して其を信者の性格の如く見做して居るは何たる光榮でありませう。其處で若し私共が此期待に背く時はそれこそ「信者だのに」との批評をされても致方は有りませんのみならず、信者全體の面目を毀損するのでありますから各自注意せねばなりません。

偖て僞と云ふ字を視るに、人と爲と云ふ字を合せたものであります、是は淺ましき東洋人の心情を露吐したものでありませう、僞善者は人の爲に善をなす者を意味すとせば、正直な誠實な者は己の爲にのみして、人の爲には何もせぬと人と云ふ妙な理屈を捏る樣になりませう。若し是が正當であつたならば、人道などゝ申すものは消滅て仕舞ひますし己の如く汝の隣を愛せよ、とか、人其友の爲に己が命を捨るは此より大なる愛はなし、などの耶蘇の御言葉は僞善の第一に位するものと見做されませう。成程神なき社會、家庭、學校等に於ては、我勝にして他を顧るは愚の至りと思惟つてゐる者もまだ可成大勢御座います、學生間等にて往々見聞致すことは、

自分さへ先生に良く思はれたらば、自分の點數さへよければ其で滿足で、朋友に教へて上げるは面倒くさく、御掃除などは可成雜にするといふ樣な、不親切な若き人々の多數あることであります、如斯き學生は優等の成績でも神の前には落伍者であり退歩的の人であります、口には基督者と唱へる者の中にも誠實と親切の缺けた人は澤山にありますから交際が面倒になり、家庭に不和が堪へないのです、知るを知る、知らぬを知らぬと云ふ事が出來ず、無きに有る風をしたり、有を隱して責任を免がれんとする者は、矢張り虚禮、虚榮と申すのであります、「汝等たゞ是々否々といへ此より過るは惡より出づるなり」との主の教を實行しますなら、臍をかむ如き事はありません、一時間に合せに思はぬ事にも御尤もなどと同意をしたのが後に至りて、大變な事になる場合も度々あります、好きでもない物を大好物などゝ、御世辭に云ふて迷惑な目に會つたとの笑事もよく聞く事ですが、斯る事は戯談に見過すことは出來なくなりました。正直に申すことは無禮に渡ると云ふ人もありますが、若し注意してゐますなら、決して無禮な言葉を使はずして、是は是、非は非と云へるもので、心ある人は其に依り私共を尊敬する樣になります、基督者には僞がないと云はれるのは非常な賞讃であると感謝して其を愈々高め度いものです。眞に僞のないものは親切になるもので、虚僞程不親切はありません、其故に「神は信實なる公義者なるが故に必ず我儕の罪を赦し諸の不義より我等を潔むべし」と申した後に「神は即ち愛なり凡そ愛にをる者は神に居り神又彼に居る」と約翰が述べて愛を力説したのも首肯かれる次第であります、基督教は愛の教と一般云はれますから、親切は其行として表はれねばなりません。一日某婦人が訪問されて二三ヶ月間救世軍經營の肺結核療養所に入院された經驗を述べ「本當に彼處では院長さんから看護婦さんまで其は〳〵親切で、患者が歩けないと、負ぶつてまで下さるのです、加之に嫌な顏など少しもせられないで、何時でも夜中でも、用があればニコ〳〵として御世話下さいます、あれは耶蘇と共に御働くと云ふ事と存じました、私は今まで基督教など知りませんでし

たが、病院での親切に感じ、其から信仰心を起し、毎日祈をなして求道して居ります。私丈でなく、患者が入院當時は基督教などゝ馬鹿にする者もありますが、追々親切にかんじて、成程と感服して參るのです。私も病氣であの病院に送られたことが身心共に救はるゝ道であつたと今は感謝をして居ります」との美談を聽きました。病院と云はず、事務所、學校、家庭、汽車電車內、市街何處でも親切にしたいものです。人の見ない處でも親切は幾何も出來ます公園內に紙屑や辨當の空箱を棄てゝ、折角掃除の出來た場所を醜くする事や汽車の室內に無責任に果物の皮をなげ棄てる事なども止め、山林に入りても樹木を大切にし、路傍に石など轉げて危い時は一寸手を下して側に除ける等の陰德は親切心から湧き出ます、是非とも諸姉と共に此秋は何事に依らず親切を趣旨として修養致さうではありませんか。私は子供時代に學校の硝子窓を掃除する時に、年長の友人が必ず危なさうな處や、寒い外部の方を何時もして、私には溫い室內の方や下部をさせてくれしことを忘れられません、其友は二十一才で永逝しましたが、其友の親切は今尚生て、私を感激させ、自分の我儘勝手を戒めて居ります。諸姉にもいろ〳〵の御經驗が御座いませう御伺ひ致し度ものであります。

信者の性格は只眞實と親切に限られては居りません、我等は益々理想的性格に向ひ前進中であります然らば其到達點は何處なるか、理想の特性とは何なるかと問はれますならば、勿論眞の神の性格を申分なく發揮されし救主耶蘇基督に肖ることでありますかく望んでは居ますが、神の性の正反對なる惡魔の性質を我等が多く顯して居る事は悲むべき事であります、乍然我等の目的は神に肖ることであります、「我等今神の子たり、後いかん未だ露れず其現れん時には必ず神に肖んことを知る」とある通り私共は今は未成品でありましても末には神に肖る者、日々似つゝあるもので御座います。「既われ生るに非ずキリスト我に在りて生るなり」などゝ告白が出來る完成の時節が不知間に參りませう、「我小子よ我汝等の心にキリストの狀成までは汝等の爲に產の劬勞をなす」とて信者の性格を造らんと努力した使徒ポーロに倣ひて、私共も勵み努めて、自他共に信徒たるに適當しき特性を養ひ度いものであります。

講演

基督教眞理の解放力

左は仙臺修養會にて講演すべかりしものを講演者病氣の爲に演述し得ざりしものなり。（編者）

稻垣陽一郎

今の世に「自由」なる言ほど誤解せられ、從つて誤用せられ居るものはない。自由とは何等束縛なく、制肘もなく、おのれの欲するがまゝ、おのれの望むが儘に思考し、動作し生活するものゝ如く考ふるものは尠ない。されど眞の自由とは放縱を意味せず、我儘を意味せず、自然主義を意味するものではない却て一定の法則に從順なることである。小さき池中に游泳する金魚を見るときは、嘸究窟ならんと思はれるかも知れない。されど若し金魚にして我儘にも其生活の法則を破つて池の外に出るとせば、之れ彼が自由を享樂せしにあらずして、却て其死滅を急ぐのである。

われらの主イエスキリストが、おのれを信ぜしユダヤ人に告げて「我道に居らば誠に我弟子なり、かつ眞理を識らん、眞理は爾曹に自由を得さすべし」と仰せたまひしは、眞の自由とは主に居ること、即ち神の聖旨に從順にあることとなるを示したまふたのである。

聖書には「自由」は「奴隷」と對照せられてある。新約書の書かれし時代には奴隷制度は公行せられて居

つた。彼等は全然其の主人に屬するものとして、身に自由を有せざるものである。されど奴隷とは必ずしも此種のものに限らない。主キリスト曰く「惡を行ふものは、惡の奴隷也」(約八〇三四)と今の世には幸に奴隷の制度は廢せられて居る。されど此種の奴隷は今の所謂文明の社會に其數却て昔よりも夥しい。彼等は學識を有し、位置を有し、權勢を有し、金錢を有し、而して是等を其欲するが儘に自由を亂用し害用し、惡用して得意然として言ふ、われは不羈也われは自由を滿喫し、自然を享樂するなりと焉んぞ知らん。其所謂「自由」「自然」なるものは、却て、「慾の奴隷」「罪の奴隷」禽獸に等き擧動ならんとは。何たる矛盾ぞ。之れ豕泥に塗れながら、自から其醜を知らざるに等し。夏の夕暮に樹の梢より梢へと張れたる蜘蛛の巣に、虫の捕へられて、もがくをみれば、人は之れをあはれと思ふ。されど世に最も憐むべきものありとせば、自から一種の奴隷にてありながら、其奴隷たることを悟らざるものである。基督敎「眞理」は此種の奴隷に、眞の解放を與へんとするのである。此解放は三重にして(一)心の解放(二)性格の解放(三)生活の解放である。

一

基督敎眞理は先づ心の眞の解放を與ふ。人の心種々のものに囚へられて居る。誰か大膽にわが心は眞の自由を享樂すと謂ひ得るものありや。われらの思は惡念の奴隷にあらざる乎。傲慢、嫉妬、怨恨、冷酷等は、われらの心の專制主にてあらざる乎、若し然りとせば主キリストは「爾曹相互に相愛すべし」と敎へ、其心に愛を灑ぎて、同情慈悲寛容の美情を抱くに至らしむ。われら心は不正の念の奴隷にあらざる乎。神のものを私せんとし、神よりも自己を第一となし居らざる乎。若し然りとせば、主キリストは「爾曹先づ神の國と其義とを求めよ」(太六〇三三)と敎へ、萬事萬端「神第一」となすことを心掛け之を實行するに至らしむ。或は又われらの心は不潔の急の奴隷にあらざる乎。若し然りとせば、主は「聖

靈の感化を以てわれらの思想を潔め」、不法の慾望を心外に驅逐せしめたまふ。かくの如くキリストによりて解放せられたる心は、神の命維れ從ふにより神意に逆ふ反對に勢力來り迫りて、其平安を亂すことなく、心中常に良心の責なく、公明正大、俯仰天地に耻ぢず、眞の自由あり

　夏の夕　ふく風にもまして　すがすがしく

あり得るに至る。

二

次に基督教眞理はわれらの性格に眞の解放を與ふ「人は皆罪の中に生れたり、肉によりて生るゝものは肉なりとあるが如し。肉に居るものは神の心に合ふこと能はず、反つて多くの惡き業を行ひて罪を離れざるものなり」（日本聖公會祈禱書二五一頁聖洗式勸告）われらは先づ此罪性より解放せられねばならぬ。此罪性の故によりてわれらの衷に於ける天與の「神の像」は破損せられ人間本來の光榮は汚がされて居る。されど此罪性より解放せらるゝの途は、人間の工夫にては成就せられない。之は十字架の功德によるの外はない。「イエスキリスト我儕を釋て自由を得させたり」（加五〇一）とは即ち此謂である。十字架は罪に對する勝利である。此功德を實際われらに傳達せらるゝ途は勿論洗禮である。洗禮は　新生　なりとは、罪性の覊絆を脱却して、神の子の自由に入り、光の子、天國の嗣とせらるゝとの意味である。之れ罪性よりの解放である。

かくわれらは罪性より解放せられたれど、尚われらの弱點よりして實罪の爲に苦めらる。われらは又此實罪より解放せられねばならぬ。罪惡の爲に俘囚となるは苦きものであることは使徒パウロの痛切極まる經驗によりよく代表せられてある。

されど彼は語調一轉して曰ふ「此死の體より我を救んものは誰ぞや、是われらの主イエスキリストなるが故に、神に感謝す」（羅七〇二四―五）主キリストに屬する者は、肉と其情および慾とを十字架に釘けたり」（加五〇二四）されば如何にして然るを得るかと謂ふ

に、之れ主のわれらに賜ふ靈によりてゞある。「汝等靈によりて行ふべし。然ば肉の慾を成すこと莫らん
そは肉の慾は靈に逆ひ、此二者互に相敵る。是故に爾曹好む所の事をなすを得ず。然れど爾曹もし靈に導かるゝときは、法律の下に在らざるべし」（加五〇十六ー八）。かくの如く實罪より解放せられて、此に理想的基督信徒の品性の特徴にして「靈の結ぶ所の果」なる仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、樽節を備ふるに至る。

かくてわれらの品性は眞の解放を得る。

三

最後に基督敎眞理はわれらの生活に眞の解放を與ふ。今の人の生活は一種俘囚の生活なりと言へば、多くの人々は首肯しないに相違ない。されど男子は俗樂に囚はれ、女子は虛榮に囚はれ、青年は成功熱に囚はれ居ることは、誰も否み得ない、然るに是等のものは金錢を得ずして滿足せしめ得ない。從て社會の上下を通じて愛錢の風、滔々として漲るを見るされど古より「財を慕ふは諸の惡事の根也」（提前六〇十）とは、眞實である。人、妄りに金錢を欲するが故に種々の誘惑生じ來る（一）金錢を有せざる爲に之を得として不義不正の手段を用ゐんとするの罪に陷る預言者エリシャの僕ゲハジの末路或は主キリストを銀三十枚を以て敵手に賣りしユダ等其例である。

かくては金錢を使用するにあらずして、金錢に使用せられたのである。之れ金錢の爲に奴隷となりしものである。金錢の爲に節操を賣り、主義を賣り、信仰を賣りしものである。之は金錢と魂とを交換せしものである。之は自由でない、不自由である。之は解放ではない、俘囚である。（二）金錢を得が爲に又諸の惡に陷る。金錢其ものは罪なし、唯小人之を抱て罪あり。畢竟之れ其使用を過れるが故である。之を放恣逸樂の方便とするからである。かくて貧ければ、貧きまゝに苦勞あり、煩悶あり、焦慮あり。富めば富めるまゝに、又誘惑あり、氣遣あり、不安あり。いづれにしても、生活上自由あり、解放ありと

言ひ得ない。眞の生活上の解放を得るが爲には、是非とも、一工夫を要する。之が爲には貧富兩道に處して、常に安住を樂める。

神を敬ひて足ることを知るは大なる利なり。われら何物をも携へて世に來らず、亦何をも携へて往くこと能はざるは明なり。それ衣食あらば、之をもて足りとすべし(提前六〇八)

人各其身分と位置に應じ、衣食あらば足れりとす之れ眞の安住の道である。それ以上は虚榮なり、奢侈なり。「富まんと欲するものは、患難と罠また人を滅亡と沈湎に溺す所の愚にして害ある萬殊の慾に陷るなり」(提前六〇九)されど分に安ぜよとは向上進歩の努力を挫かんとするにあらず。神のめぐみわが身に足れりとし羨他焦慮の愚を學ばざれとのことであるさすれば異邦人の大使徒の如く「われ富に居るの運を知り。又貧賤に居るの途を知る。われ兩つながら之を熟練せり」と言ひ得るに至る。之れぞ眞の生活の自由なる。之ぞ眞の生活の解放なる。

四

以上基督教眞理によりて眞の解放を得るときは、(一)心に眞の自由あり、不德不潔の邪念妄想に囚へらるゝことなく「善き良心」に從ふの人となり得べく(二)品性にも眞の自由あり、罪と其誘惑の爲に囚はるゝことなく、惡を行ふ惡の僕とならず、愛を行ひ、善を樂むキリストに似たる基督教的品性を保ち得べく(三)生活にも眞の自由ありて、世の風潮に動かされて、奢侈虚榮の爲に苦慮煩悶することなく、わが最善の努力を盡くしつゝ神の恩惠に信賴し、わが分に安んじて、如何なる境遇にありても平和、安心、希望、光明を以て神の許るしたまふ限り、此世の生活を眞に樂むことを得るに至る。之れ實に神の眞理を樂んで則を越えざる眞の自由の生活、眞の解放せられたる生涯である。言換れば、われらの造主たる神がわれらに望みたまふ生涯である。

基督教は眞に人類を解放するの宗教である。望むらくは、今の世の自由を放縱と取違へ、解放を禽獸

に等き生活と思違ひつゝある人々、此基督教眞理に來りて、其心、其品性、其生活を一變し、之を高上し、之を美化するに至らんことを。

品性と宗教

(哥林多後、三の一八)

星野光多

一品性の價値

ハドソン、テーラー。ジョン、フレッチャー。品性は最高所有物。靈魂の不朽羽衣。

一吾人の運命

永遠、完全。吾人は只救はるるのみにて滿足すべからず全備せる神の子供となるべし。(馬太、五の四八。羅馬、八の二九、三〇。彼得後、一の三―八。約翰壹書、三の一、二)

一品性の道德的修養

法規又は理想を掲げて拘束、描寫、克己努力、境遇選擇等によりて其目的を達せんとす。勞多くして功少し。之に有勝の弊は驕傲と冷酷となり。

一品性の宗教的修養

哥林前一二の三一。「至美たる賜物」「尤も善道」―神の愛を愛して愛の人となる事は品性完備の最頁法也。(哥林前、一三の四―八)

一品性は建築すべきもの乎或は成長すべきものなる乎。(約翰、一五の四、五、八)

ソロモンの榮華と野の百合花の比較、書院の名幅と庭前の七草比較。

一信仰生活の誇

一少女聖德の秘訣(哥林後、三の一八)アマンダ、スミスが事。歸省せる宣教師の所感。品性の自然、高潔光榮。(哥林八、三の一八)

品性の眞の價値とはいかなるものなるや。米國に今より數年前此世を去りし大實業家ありき。此人其晩年に於て非常なる富を作ると共に其全部を上げて宗教及び慈善事業に捧げぬ。彼の世に貢献せし處甚だ多く彼の品行及び品性は實に信者の鑑たりき。彼も元來は慈善家にあらざりしが、今より廿有餘年前フイラデルフイアの彼の家に一人の客人は訪れたり。客の風采は立派ならずと雖も日ならずして客人の美しき信仰と床しき德は主人の羨望の的とはなりぬ。客去りし後主人は暫し其偉大なる人格に打たれ恍惚として醉へるが如くなりしが忽ちにして拜金主義の彼は心は謙遜を習ひ、財産と名譽心を打捨て祈に努めたり。遂に彼の祈りは聞かれ。招かずして萬事好都合に運び富は家に流れ込み其富を以て彼は所有慈善救濟に其資を投じたり。其客人とは實に是支那内部傳道會社設立者のハドソンテーラーなりき。恰もザアカイガ、イエスを宿したるが如し。又かのジヨン、ウエスレーの尊敬せしはジヨン、フレッチヤーなりき。ウエスレーがフレッチヤーと晩餐を共にする時には恰も主の晩餐に連なる如き心地すと云へりと。

實に人間の最も貴き點は其品格にあり。いかに其外面の容貌衣類美しくとも、品性の美に如くものなし。富は廢り、美は衰へ行くも品性の美は靈の不朽羽衣となりて、益々美しき光を放つべし。

凡て人間は永遠の命を持つものなり。然れども我等は一度神の示しを見る時に直ちに全く救はれたる者と見做し小成に安じやすき傾向あり。神の全き子となるべき爲にはキリストの形に似、尚キリストに同化すべきなり。我等の最大の目的は其處にあらざるべからず。

人は天性に於て美質を持てるものなり。然れどもこれも磨ざれば眞の玉となる事能はず。即ち我等は修養すべきなり。

此修養の方法に於ては二種に分つ事を得。即ち品性の道德的修養、及び宗教的修養是れなり。道德的

修養は法則を標準となし、宗教的修養は神と人との關係を標準となす。道德的修養の其缺點と見るべきものは第一に何人も容易に其着眼點に達し得ざる事なり。即ち勞多くして、功少し。人若道德的修養によりて、品性を磨き、立派なる理想を選擇し、克己努力の結果其目的に達したりとせば其益の多大なると共に又弊も自ら是に伴ふべし。即ち自己を高くして驕傲となり平凡となる人を輕蔑するが如き傾向を生ずるを常とす。

然れども神の子たる我等が前には最も喜ぶべき道開け居れり。神は我等を修養すべき「至美なる賜物を示し給へり。即ち愛の道なり。眞の信仰を以て愛の神を愛し、愛の人となる時凡ての德の「尤も善道」は求めずして選ばるゝなり。生きたる愛の生活は品性完美の最大良法と云ふべし。偉人ルーテルやウエスレーの如き此信仰と愛を以て、品性を磨き神の喜び給ふ事業を成遂げし者なり。

ソロモンの榮華の極みも野の百合の一輪の裝ひにしかず、又寺院にかゝげられたる名幅も庭に咲ける七草の美しさに比すべくもあらず。即ち人工的なる道德修養は心より溢るゝ愛の宗教的修養に及ばざる事幾何ぞや。

此信仰生活に入り神を愛し、キリストを愛する事は、いかなる高貴貧富と云へども差別なし。或人米國より歸りし人に一番美しき者は何なるやと問へり。彼答へて「曰く老婦人なり何となれば、信仰生活により磨き上げられたる彼等は、其醜き形にも似ず品性の美は皺を通して表れり」と。

又アマンダ、スミスと云ふ黑人は其容貌恐しげなれども一度彼女に接する時には、其德にうたれて敬服せざる者なしと、或一少女其胸にさげたる小さき飾物に、「汝等イエスを見ざれどもこれを愛し、今見ずと云へども信じて喜ぶ。其快樂は云ひがたく、且榮あり」。との聖句を入れて、常に自らの守りとなしたりと云ふ。

こゝに於てか我等は帕子をのぞけ鏡にうつす如く明かにキリストの品性をうつし尙同じ形に變るやう務めざるべからず。是れ眞の修養と云ふを得べし。

（文責記者）

新生の女子

神戸メリデルト牧師　日野原善輔

此頃、新時代、新時代と云つて居るが新時代と云ふものは新人が生み出した物である。決して新時代があつて新人を作り出すものでないから其責任は新人にあるのである。一體教育せられたる人は新人であつて、從つて教育せられたる婦人は新婦人であるでは此新しき婦人はどうして出來たかを考へて見たい。元來、女子は男子の妻なるものと運命の定まつたものであつた。女と云ふものは男と云ふものに依り懸るものとなつて居た。申命記にも民數記略にも男子は女子を離婚する事が出來るが女子は男子を離婚する事は出來ない事に書いてある。又印度では晝も夜も女は男の保護の下に居なければならぬ者としてある。ローマの歷史にも女子が人妻となつた時は、彼女自身と其持物は結婚と共に男子の所有物であると云つて來た。希臘のプラトーも女、子供を眼中に置かず女は定つた夫を持つ資格なしとさへ云つた。東洋でも西洋でも女子はかくのごとき位置に在つたのであつたが十九世紀の中頃から變つて來たのである。其れは一ッは女子に高等教育が許される樣になつたからである。婦人を解放せしめた恩人は、ジョンフレデリッキ、デリソンモリスであるこの人が五十九年前に英國で女子の教育機關を立て高等教育を與へそれから今日の如く盛んな婦人教育に入つて來たのである。もう一ッは婦人參政權である。何故にこれを主張したかと云へば投票し度い爲ではない。一體男子と云ふものは社會事業、婦人、子供或は道德などに對しては考が放慢である。男子は他に用が多いのと利害得失の考のために時によると理も非

も無なるが女子は此れと反對であつて、又其上一度受けた宗教的感化は非常なものである。女子の頭に一度呑み込んだものは決して出さない。故に男任せにすると國の道德、幸福と云ふものは地に落ちて仕舞ふ、小さく見ゆる問題を小さくなく仕度いと云ふ處から女子が男子の中に割り込む事になつたのである。物質競爭が盛で社會問題や家庭問題が複雜になつて來たので女子がこゝに立つて働かうとする。これは今日の時代必然の要求であつたから英國はそれを許したのである。

將來、女子も必ず男子と同等の權利を有すべきを主張したのはジョン、スチウアルドミルであつた。彼が國會議員として千八百九十七年にこれを議會に持ち出したのであつた。それより五十年の後の今日やうやく日本ではポッポッ烽火が上りかけて居るといふ有樣である。婦人の解放が十九世紀に突如として起つて成功した理由はキリスト教が眞に理解された事である。

聖書にはキリストとポーロの二人の人物があつて或場合にはキリスト教はポウロの宗教とさへ云はれる事があるがポウロは婦人の問題に對しては古い說を取つて居る。彼は此點に於いて古い頭を持つて居た。そのポウロの思想がずつと傳つて居たのであつたが近代になつてキリストの說に心をつけ初めたのである。エスの福音を研究して見ると婦人問題は重大な位置を占めて居る。二十世紀の今日なほ日本では婦人問題の重大が認められて居ないが、キリストは二千年前に時代の潮流に逆つて十字架にかゝられるまでに眞理を主張されたのである。キリストは婦人のため子供のため其當時の間違つた思想に反對され眞理の主張信仰の主張をなされた故に十字架にかゝられたのである。

キリストは一目瞭然この婦人問題の解決の明文を殘し給ふた。それはマグダラのマリヤの話である。睨みつけて居る人々の中に入つてキリストの頭に油を塗つた彼の女は勇氣と人格のあつた新人である。當

時の習慣事情に拘はらず自分が好いと考へた事を爲す事に人格があるのである。新人新婦人と云ふのは自ら考へ自ら爲す者である。キリストはかゝる婦人を奬勵されたのである。弟子達は彼の女を戒めたが彼等は古い頭を持つて居たからである。今より半世紀前にキリストの精神を貴しとした人が婦人の解放を主張したのである。

キリストがかゝる事を仰せられなかつたら婦人問題は非常に曖昧なものである。現代の婦人は教育ある婦人でありながら自ら考へ自ら爲すの考なく絶對に服從して居るかさなくば新しき婦人と稱して墮落して居る。

御殿場の大會に興味ある話があつた。南洋の一小島に二人の宣教師が眞裸體の土人に神の道を傳へて居るのを見て來た話があつた。二人の姉妹が其孤島に誰れにも知れずに人間の靈を神に歸しつゝ隱れたる寶を積んで居るとの事である。露はれない所に置いてでも自らが爲す可きものと考へて、之を爲すと云ふその生活が眞に貴いのである。ロビンスと云ふ人がオーストラリヤに行つて見た話があつた。其地では勞働者の幸福を計つて休息の時間を多く與へて申分のない社會組織であるのに、その人民は活動寫眞を見に行く遊びに行く非常な墮落の中に在るさうである。彼等は與へられた自由を高き目的のために用ゐないために墮落するのである。

「自由解放」と「神事に供す事」とが相伴はなければ自由は墮落の基である。現今の新しき女の自由は自分のための自由であつて國の爲でも無く神の爲でもないから價値が無いのである。我々は自由を得たなら神のため正義の爲人道の爲に身も靈も捧げてこそ初めて眞の價値があるのである。オーストラリヤに宗教がないから、かゝる勞働者に對する優遇がかへつて墮落の原因となつたのである。宗教が伴はずして自由が與へられる時は罪の囚れ人となるのみである。キリスト教を與へられなかつたら、將來の日本婦人は危險なものである。

諸姉は宗教を通じて自由にされた身を神に捧げやうとするには此處に三ッの樂しむべき自由がある。第一、良心の自由である。これを確實に主張して行かねば婦人の權利は得られないのである。米國のある婦人が禁酒すれば結婚をすると云ふ約束をした。ところが其男子は三年間極眞面目に禁酒をしたがいよいよ結婚の式を擧げると云ふ二三日前にもう今ではいゝと云ふ氣になつて飮酒した。其事が式の二三時間前に其婦人に知たのであつたが、彼女は斷然として結婚を拒絶した。牧師も親類の人達も今度だけ許す事にして式を擧げるやうにと勸めたが倒々結婚を斷つて了つた。彼女にとつて其決心はどんなに苦痛であつたか知れない、どんなに煩悶があつたか知れない、けれども、彼女は良心に從つたのである。かくの如く我々は良心を自分の王とし、又神の聲とする可きである。さて第二は信仰の自由である。信者である以上神第一の生活を爲す可きである。どこまでも如何なる境遇に在つても自分の信仰を固持するそこに信仰の自由がある。第三は家庭の自由、如何なる客が來たにしても神聖なる家庭を汚されてはならぬ。自分の家が禁酒の家であれば如何なる客に對しても酒を出してはならぬと云つたやうな家庭の自由を尊重してもらひ度い。

この三ッの自由を注意して守つて行つたならば間違なき新しき人なのである。そして精神的の淸い生活を爲して罪に打ち勝ち周圍の事情に打ち克つて行くには神の無限の力に依らねばならぬのである。（文責記者）

財寶は身のあだなりと知りながら　尚も求むる人の愚かさ　（古歌）

人おほき人の中にも人はなし　人になれ人人になせ人　（同）

正直に家業精出し奢らぬが　十露盤いらずの早い算用　（同）

知らずして能ある人を笑ふこそ　己が愚を示すなりけれ　（同）

婦人と慈善事業

內務省囑託　留岡幸助

吾國は人間の殖える事に於て世界の二番である平均して一方里に人間の數は二千七百七十六人ある最も人間の多く集まつてるのは府では東京、大阪、縣としては香川縣で有人間の數は方里に比べると世界の二番である方里に最も多いのはベルギーである。

文明各國と日本との富の程度は英國が一番多く一人の富は三千八百圓、日本人は五百圓である人間の數は日本が一番であるが富の程度は文明國の終りの方で貧乏の子澤山の原理に叶つて居る。然らば一年に人口はいくら增かといふに一年に人口七十萬人十年で七百萬人となり、ベルギー一國の人民が十年間にて出來てしまふ、國としては二千六百年續いてる、文明各國と肩をならべて行くうちで一番古いのは日本である、これは結構なる事であるさらばいかなる人がまして行くか、健全なる有益なる人間が增して行くのはよいがいくら澤山ましても、やくざ者が殖るといふ事は困る。

如何なる人が殖るか。

人間の整理

人間の整理をしやうとすれば社會事業、慈善事業が必要で有文明が進んでも物質文明であつては精神、宗教の文明は後れてしまふ。

慈善事業社會事業として世話しなければならぬ人

大正二年の調

犯罪人　一年に十二三萬人

重罪人、輕罪人、終身懲役など合せて五萬七千――六萬人、一才未滿(監獄生)四十七八人――五十人引取人あれば渡す、十四才――八百六十八人、十六才

——二十才未滿七千三百人
これらの人の爲めに一年にいくらの費用を要するか
大正四年調
裁判所にて　五、六五二、六三九円
監獄にて　五、五二六、八九二
警察にて　一六、三六六、二四四
これの合計　二七、五七五、七七五
出獄人保護事業　大正五年の調
日本に三百十ヶ所ある。
毎年出獄人　三萬二千八人あり
浮浪徒
これは非常に範圍が廣い。
乞食で泥棒する、商人になつて人を脅迫するものが一萬人位ある。
失業者　日本にあまり澤山あつて數ふる事が出來ない。
窮民を救ふ法律があるこれによつて救ふ。
政府で救ふものが一年に八萬人位ある。

費用
天災のあつた時は罹災救助基金があつて救ふやうになつて居るこれは一年に三十五萬圓ばかり用ふるので日本は最も天災の多い國の一である。
行路病者　行倒が一年二萬二三千人ある
費用　十八萬圓
捨子迷子　一年二千人——三千人これらの費用は政府で七萬圓用ふる。
不良少年　五十七の感化院の内に八才——十八才までのものが二千人居る費用としては二十三萬圓
然し社會全體としては十萬人位おるこれが皆成長して泥棒になる、これが不良少年時代に救へばよいがそのまゝにして置くために惡人が多く出るのである
盲啞　七才——十三四才日本全體の子供で小學校に行くべきもの八百八十萬人位あるこの内啞者が六千五百人盲啞學校六十一、盲人六千三百人啞が千人白痴五千人低腦兒一萬三千人癲癇二千五百人不具者二萬人托兒所、養老院各種慈善事業等四百二十八ヶ所

費用として二百萬圓以上取扱つた人々は六萬五千人
癩病百八十萬人、肺病四十萬人、梅毒病十五萬人、精神病四萬一千人、藝者四萬五千人、娼妓五萬二千人、私生兒千六萬人、自殺(縊死、轢死、溺死、毒藥自殺)七千人
離婚　六萬人
特種部落新平民　百萬人
日本にて一年に用ふる煙草は七千八百萬圓、酒は二億三千萬圓
酒の結果として
娼妓、酌婦、犯罪人、不良少年、喧嘩、自殺、貧乏、狂人、薄馬鹿、本馬鹿、病人(花柳病)等が生れる。
酒を作る爲めに一年に米を三百五十萬石費す一人の一年に用ふる米は一石あればよい酒はかく多くの米を費して社會に病毒をながして居る。
一年間に慈善事業で取扱ふ人は八百四十一萬八千五百三十六、酒煙草を作る金は四億三千萬圓、日本の歳入七億圓、歐米の慈善事業がよく行なはれてあるのは三つの力となつて居るものがある。
第一　宗教の力
第二　實業家(熱心にしてくれる人が多い)
第三　婦人の働
日本では婦人が社會事業の爲めに働いてくれる人が少ない、同情ある婦人の力をまつ事が澤山ある、かく慈善事業が必要であるがキリスト教信者はこれをしなければならぬ。(藤島とよ子記)

基督教女子大學新設

來春四月から愈々開設される基督教各派連合女子大學は最初東京府下新宿角筈、以前衞生園と稱せし處なり、校長は新渡戶博士、主事は安井哲子女史と內定せり、長尾半平氏、江原素六氏、佐藤昌齋博士等理事に擧らる。

修養會の印象

私も修養會に

米國　横澤つぎ

私の始めて參りました米國の修養會はミヅラ州の山中、日本の山を思はしめます處でした、平和な樣な柔い樣な氣分を與へる處で、丁度私共のキャンプの下に可成り大きな川が流れて居て、朝夕は殊に美しいのです、夕日が西山に落ちむとしてゐるところなど見てゐると神の働の大なるに感嘆するばかりで私は自然の美を通して眞に神を最もよく知る事が出來ると思ひました。會員數は全體で四百八十五人のやうでした。其中十五六人の印度人、一人の東洋人即ち私でした。實は私は最と支那人や日本人に逢ふつもりで樂んで居りましたが一人で失望しました、一番に氣がついた事は此修養會の餘りに日本のそれに似てる事なので大津の修養會を思ひ出さずにゐられませんでした。只此修養會には學生傳道義勇團とでも申すのがあるのが違ふやうに思ひました。紐育から來られた指導者の方々は餘りに私共と違ひ如何にも氣高く愛と喜びの顏に溢れ何と申してよいのですか。兎も角私共と違つて居られるので私がいかにも小く詰ら無思へました。此人々の下に十日間を送る事の出來たのが何より感謝す可事と思ひます、每朝八時半からの祈の會が有ました。私はお羞かしい事ながら、其迄は祈の會の殊に敎會のは活氣なきものと思ふてゐましたが修養會中の此祈會は長い長いものであつたのに拘らず會中忘れる事の出來ぬものと成つて私の頭に殘つて居ます、今でも此朝の集りを思ふ每に其時と同じ樣な敬虔な喜びに充ちた感に

うたれます、毎朝起きると「あゝ朝だあの集りがあるな」と思ふて嬉しく思はれた程です私は二年生の聖書の組に入りました、之は普通の聖書の組と違ひ一の討論會の樣なもので以前から私が考へて居た樣な問題が續々出て來て面白く思ひましたそれのみならず今まで氣のつかなかつた事を種々と聖書上に於て得る所があり久しぶりに聖書の研究をして有難く思ひました。高女の方々が百人以上もあり皆が私に親切な言葉をかけてくれ寫眞を撮るやら、ピクニックに招いてくれるやら其無邪氣にして人を喜ばせる事は日本人の學ぶべき點かと思ひ感じました。此高女の人達が日本の修養會への手紙を書いたのです、仙臺の方へ出しましたが間に會ひましたでせうか。會への行も歸りもカンゼス市に立ち寄り其青年會に參り實に立派なのに驚きました、五階から六階の建物で先づ昇降機で三階に參り夕食を戴き休憩室に行つて見ましたら室は可成り大きな室です窓にはブラインドが下してあり寢臺の上に五六人の女の方が帽子を側に置きやすやすと寢て居り一人は休んだあとで靜かに起き帽子を被り町の方へと出て行くと又疲れた婦人が入つて來て休みます、私は眞個に美しいと思つて見て來ました。次に五階にある水泳場には七八人の人が盛に泳ぎをするやら或は今練習中の人やらで盛んにやつてゐました。何でも良いものを見る毎にあれも日本にしたい是もと何日も思ひます。高橋みづほ姉と申す札幌の北星女學校出身者を御存じですか私と仲好で昨年も私と同時に米國に渡られましたが、二週間程前に終に急性肺炎で死去しました。幸な事には其方の一家は皆信者と思ひますが、御母君が御氣の毒で御座ます。明晩は當町の劇場でレーガン樣が日本の幻燈をされます、演說もされるので當町は二三日前から大騷ぎです、收入は凡て赤十字の方へ送られますレーガン樣は益々御健康に復されます。

七日間の印象

東京　磯邊時子

先生彼日私は漸く修養會に出られる機の來たるを百年の計畫でも成つたかの樣に大袈裟に先生に御吹聽致しましたのに、間近になつて私は矢張り少し躊躇せずに居られませんでした。全く井中の蛙の私は上野からの汽車は未だ巣鴨しか乘らなかつた事や、始めて味ふ寄宿舍生活等に何となく不安を感じて半分オド〳〵し乍ら出掛ました、而て一週間後には往の事を忘れたかの樣な感謝に溢れ希望に滿ちた自分を同じ停車場に見出さねばなりませんでした。私の如き小な者をもお遣し下さつた尊い御旨を染々感じました。先生は多分彼子がどんなお土産を齎して來るかと微笑んでお待ち下さつたでせう、七日間の印象！餘り多く何から申上げてよいか分りません。第一先生方や各地から集つた方々と全く打解けた家族的な樂しい生活が今迄私が寄宿舍生活に對し抱いて居た概念を全く裏切た事です。日毎の御講演は何れも私達に適切な御教訓であつた事は元より城戸先生の羅馬書の御講義も其の明瞭な御聲と共に最も私の頭に透徹して伺つた樣に存じます、其他私の期待しなかつた御惠は澤山ある中に、各學校の方々が各々整頓した自治組織を以て、美しい働をして居らるゝ事を伺ひ、自を省みた時に實に神樣の御前に言ひ知れぬ恥しさ申譯なさを感じました。學校中で讚美歌を歌ひ信仰上の事を話しても先生の御話に屢々抵觸する事があつた私の母校の事情を先生はよく御存じです、そして一週間先生の聖書の組へ級友四五名を誘ふ事すら私等に精一杯の苦心であつた事も。

けれど今思へば彼時もつと祈り勇氣を以て持續したならば今頃は何か一致した働を爲す事の決して至難でなかつたと無爲に過した日が悔まれると共に、修養會より歸つて第一手を束ねては居られぬ事です秋から青年會に私達の組を再興させて頂き、出來る

丈多くの友に會員としての歡を頒ち度い事です、過去廿年。淡い乍ら信者の色彩を帶びた平和な賑かな家庭の空氣の中に、何の苦惱もなく幼稚園から女學校迄何時の間にか筍の樣に大きくなつた私は餘りに豐な御惠に痲痺し、尊い己の使命を自覺しないで過して參りました。本當に此修養會が私に其を告知する鐘だつた事を深く感謝します。又始めて接した方々には全く舊友の樣な御親みを得た事は實に嬉しく主の御前に一つである事を感じました。若私達が神樣を知らない同志なら摩違つても冷い瞳を替す路傍の人に終つたかも知れません。殊に北海道の方とは御話する機會があり本當に素直で御謙遜な方々を御慕はしく存じました、そして何時か先生と其風趣が清楚、幽麗、激灧否どの語でも盛り盡されぬ鈴蘭が曠野一面に香ふ頃のリリー摘を伺ひ、人と花との背景の相應しさを思ひました。又忘れられない事は宮城女學校の先生初め皆樣が實に周到な御注意を以て親切の限りを盡して下さつた事で、私共が客人を迎へる時何時もあの眞心を以て接せねばならぬ事を敎へられました、最後を彩る閉會式の夜の壯重な事、後庭の燃火の印象！ 空には月が地上の萬物に銀の光を投げ、地には赤々と燃た火を遠く圍んで若き人々は言ひ知ぬ感激に戰いて居りました、實に當夜は過去一週間の私達の感謝、歡を最もよく表現するものでした。

歸京後、新友のやさし音便を日毎に受ける私の喜びを御思ひ下さい、先生！ 私は悉く言ひ現はされぬ事を殘念に存じます。然し是等は埋木細工よりも梅羊羹よりも遥に先生の歡んで受けて下さる御土産である事を期待して居ります。

眞心を楫とし爲さば果てしなき
　海路渡るも迷はざるらん　（古　歌）

安樂の傳授といふも外ならず
　唯だ足る事を知る迄のこと　（同）

道聞いて心の花は開けども
　其實となれる人は少なし　（同）

自治の精神

岩澤時子

私が經驗した米國の修養會で最も感じた事は、皆自治の精神に富んで居る事である。自治の精神は立派な自由をもつて團體に流用せよと申したら日本人には難かしい事である米國人は歷史上關係、境遇上の關係からこの自治の精神が隅から隅迄行き渡つて居るのである、修養會に於ても組長が自分の組の責任を皆擔つて立派にやつて行く之自治の例である、お互に自分の居る團體を一番よいものにしやうと努める、次は團體的活動のよく行れる事である、自分は大勢の中の一人であると云ふ考へをいつでも思つてる、或人が評して日本婦人は一人一人としてはよいが團體の事は不良いと云はれた、自分一人がよいのでなく大勢が皆よいといふ念を常にもつてるこの考へは何處に行つても必要である、日本人にはこの點が缺て居るのも一は歷史上習慣上あまり團體生活をしてる事が少ないからであらうと思ふ、この修養會全體をよくして行くには自分を犧牲にしなければならぬ、少ない虛榮を張る爲に謙遜をとり間違て遂に人の迷惑になる事がある、自分が團體の一人であるといふ事を考へねばならぬ米國人はかくの如き處に犧牲を拂ふといふ事をよくする。

次には見界を廣くするといふ事である、どこの修養會に行つても各國から集まつて居るから一寸外に出ても外國人と逢ふやうになる、故に自然と見界が盛になる眞の愛國心といふのは外の國を知らない人には出來ない、外國のよき處を知り、自國の惡き處を知つてはじめて出來るのである。狹い處に居るために見界も狹く、ために下手にお國自慢などをする樣になる、見界を廣めるためにも宗教の力がいかに大なるかを習ふ事が出來る。

宗教界の大恩人

河井道子

基督教歴史を未だ御存知なき少女方に本年の十月が宗教改革四百年紀念當月であることを御紹介して其理由を一寸申述べます。

抑基督教に舊教即ち羅馬カトリック宗と新教即ちプラテスタント宗とが御座います、如何して新教が此二大宗派に分裂したかと申すと色々の原因もありますが、先第一はマルチン、ルーテルと申す大偉人が、カトリック派の誤謬を指摘して一千五百十七年十月卅一日獨逸國のウィッテンベルヒ市の教會堂の門扉に改革意見九十五個條を掲げたのから起因つて居ります。

此ルーテルはアイスレベンと申す田舍に千四百八十三年に生れ、父は農夫で後に坑夫でありましたが父母共に敬虔の人々で、ルーテルを嚴格に育てあげ貧き中にも高等教育を授けました。幼少よりして敬神の念深き彼は大學生としても「好く祈りすることは勉學のより善き半面なり」と申して朝夕の祈禱など怠たりしたことはありません。彼は十九歳の時に大學圖書館で計らず聖書に手が觸れました。其頃は聖書と申せば教會とか大學とか或は富豪の家の外には稀に見るものでした。彼は聖書の斷片を教會の禮拜に於て聽くのは常でしたが全部を見たのも始めてゝ、其れを耽讀ばよむ程、今まで聽いたことのない美しい物語や、教訓や驚嘆べき眞理を發見たのであります、餘り熱心に讀むので先生方から「そんな本を讀むよりは古の賢哲の書を讀む方が徳だ」と忠告された程でした、勿論最初は啻に知識上より學生として熟讀したものかも知れませんが其後聖書研究に

彼は全力を注ぎ終に聖書を基礎として法王に依らず僧侶に倚頼ずしてキリストの十字架によりて、救はれ信仰によりて義とせらるゝとの大福音を傳へ大革命を起したのであります、是が即ち新教の萌芽とも申しませう。舊教の新教のとの名分はルーテル以後に起りし事で其時までは總て皆羅馬法王の教政の下にありました、代々の法王は絶大の權力を有し皇帝さへも其前に跪くことさへあつた程であります、乍然聖俗混濁した惡弊が教會全體に滔々として流出し續けて其絶頂とも云ふべきものは赦罪券を衆人に賣捌したことであります、昔よりの羅馬教會では罪の悔改のしるしに懺改すると共に何か難行苦行によりて罪亡をするのが慣例でした然るに追々其眞意は忘却され、たゞに未來の罰を免がれんためや死者の地獄の苦痛を救ふためのみならず、甚しきは將來犯さんとする罪の赦のため等に金錢を拂ふなどの惡習が流行し始めました其を尚も便利にせんため法王りオ十世は赦罪券を發行して其を購へば犯せる罪は悉く赦されると、諸國で主張させました、獨逸で其賣捌主任と申すのは、テッチエルと申す僧正で彼は雄辯で聞へて居りし丈に民衆の迷信を好餌として莫大の利益を占めました、其賣捌場は何時も大教會堂で十字架の旗や法王旗を擧げ音樂、誦文など莊嚴なる儀式中に赦罪券が賣買されました。實に此奇怪なる赦罪法は敬虔なる純潔なルーテルを義憤せしめたのであります。其處で彼は其攻撃を決心しました、其手段として當時の習慣に從ひ討論の題目否寧ろ建白書を九十五個條として、自分の出入してゐた教會の門扉に貼出したのです。彼は神學哲學教授として僧正の位置を去らでウイッテンベルヒ大學に奉職して居ましたから彼は有名な人物で有ましたかく議題を公表して、誰でも意見のある人は來りて論ぜられたしとの志望を述べました。此突如なる大膽な行爲は世間を驚かせ、彼に味方するものも多く、法王や教會の勢力を怖れ反對した者もありました。最初りオ十世は此出來事をきゝ格別に意に掛けぬ樣でし

たが敎界愈騷々しく、其にルーテルの敵人等が彼を異端と稱し爭鬪が絕えませんでした、其よりルーテルの困難は想像に任せませう、終に三年後彼は羅馬敎會より破門即ち今日で云へば除名されました、併し此破門と云ふことは、生て居る限り人間視されぬことで、死後は地獄に行くと迷信的に敎へられてゐましたから、普通の者は破門さるゝを此上なく怖れて居ました。彼は法王より來りし破門の宣書を燒き捨て益々神に信賴し、基督の救を味ひ、聖書の奧義を翫味して、宗敎改革の責任を負ひました、彼が宗敎上の裁判を受けるため樣々の會議に召喚され、暗殺されんとせし事も屢々でした。然ながら彼は大膽にして少しも恐怖るることなく却て神の力を讃美しつゞけ、詩篇第四十六篇「神はわれらの避所また力なり、なやめる時の最近き助なり」のあの篇は今日もルーテルの詩篇どさへ申す程に彼は愛誦しました終に永年の苦痛を經て、彼は大勝利を全世界の爲に得たのであります、畢竟彼によりて基督敎の自由が得られたと申す次第で宗敎界の大恩人として萬國で彼を記念するも自然のことであります。

十月中には各敎會に於て記念禮拜も執行され、又適當なる讀物も發行されませう、よく注意して此好機節に啻にルーテルの昔を偲ぶのみにあらで今日の精神界、容易いへば、自分の敎會、自分の家族、自身の信仰狀態を顧みて、覺醒すべきことゝ存じます扨てプロテルタントと申す意義を一言述べき置きます、これは反抗者と冷評された綽名が固有名詞となりましたので、舊敎でない新敎即ちルーテルの改革後、法王の權力より脫して獨立した獨立敎會に屬する信徒の名稱であります、始めてプロテスタントの綽名をつけられたのは、千五百二十九年で、ルーテル派の者共に與へられましたのです。其は羅馬敎會の代表者がル派代表者に禁止令や妥協を持出したが、なか〳〵聽入れず益々反抗したから由來したのであります。

新敎中にも色々の派に分れてゐます、其中には只

名儀のみで、福音主義即ち聖書に據ぬ信仰や、基督を救主と信ぜぬ派も新教の一派として自稱して居りますが、彼等は正當なものではありません新教派の日本に主に知れて居りますのは、美以、組合、日本基督、聖公會、浸禮教會等で、其他にもまだ御座いますが、以上に比しては小な團體で御座います。

克己せし子供

河井道子

今年六才のフランクは大相アイスクリムが好で、何日もお母さんと一所に午後から買物や散歩に行き四時になりますと、アイスクリムを戴くのが何より嬉しい事でした、或日例の通りに母親と大な店に行きましたが、暑い日の事ですし、間食時ですから、母さんは第一にアイスクリムを注文致しますと、此男兒は母さんの腕に手をかけ「ママ、幾何するのですか」と平日に無い問に母は不思議な顔をして、「拾仙ですさ」と返事しますと「其なら今日からアイスクリムは戴きません」と云ふので、母は驚き其理由を質しますと「あの佛國の今度世話をして上る僕の弟に拾仙やりたいのですから」と返事しました。

彼れの意中を説明いたしますと、只今歐洲の大戰爭で交戰國には澤山の孤兒が出來ました、其で米國の同情者中には孤兒の爲にも様々の慈善を企だて、其妙案の一は、一軒で一人の孤兒の養育費を出し、其孤兒を其家の子供として置くのです、元より幾千哩も離れてゐる歐洲から米國まで、子供達を伴れて來るのではなく、彼等は矢張本國で養育所や托兒所に置かれますが、彼等の費用丈は米國の同情者から

來るのです、其も普通無意味な寄附をするのではなく、可成自各の家で家族の一人の樣に思ふ樣な方針で其金を集めるのです、費用と申は一日拾仙、日本の貳拾錢なのです。フランクの家では他に子供がありません、其で母さんが佛國の孤兒をフランクの弟として養育費を出すことにし、フランクに、よく云ひ含め「此度御前の弟が佛國に出來てジンと云ふ可愛らしい子です、神樣に御祈りして上げなさい、食る物も澤山ないので、可愛相です」などゝ小な男の子に自分責任であると敎へたのです、フランクは眞心から、自分の弟の出來たのが嬉しく、寐る時は必ず神樣にジンをよく世話して下さいと申て祈ります其が心から離れませんから大好なアイスクリムでも斷ることが容易出來たのです、併も母さんに云はれたのでなく自分から、止めた其克己心は何と偉ではありませんか、這麼子供が將來には自分の財産も自分自身をも喜んで人道の爲め、即ち神の爲に獻ずるのでありませう。私共も自分相當に克己して、他に盡すことを學ばねばなりません、自分の大好な蒸菓子などは散財しても惜くはないが、人の爲の慈善のと云はれますと五錢の白銅が百圓程にもおしい人も澤山あります、今や世界各國の婦人も子供も、男子が生命を國家に獻てゐる負ぬ犧牲獻身をしてゐます日本の女子や子供は何をしてゐませう、皆樣は何をして居られます綺麗な帶や半襟などの夢計を見る如き事があれば罪人と思はねばなりません、是非己を愛する如く隣を愛し度ものです、其心掛があれば、夢でも高尙なのが見られませう、金錢の寄附も喜んで出來ませう。

＊　＊　＊　＊

お雪さんは小な時に兩親に分れて、可愛想な娘です、其を親切な先生が御知りになつて、御世話下さいました、八歲の時に其先生の御蔭で小學校にやつて戴き卒業後は女學校に入れて貰ひました。お雪さんは惡い子供ではありませんが、大相自分の家が貧乏であつたことや、子供の時から先生に世話されて

ゐることを恥辱がり、可成さうでなき風を何げなするのです。其ですから自然妙に氣取たり、無理にでも立派なリボンなどかけて大家の御孃さんぶります夏休毎に行く處がないので、其先生が御招きになり親切にして下さいますが、最う十五六歳にもなりますから、遊んでばかり居ては不可とて、夏中毎朝女中と同じに掃除や臺所の世話を御させになりました處、或日御雪さんが部屋から出てきません、先生は病氣とおもひ御質なりますと泣きながら申す事は、「私は這麽に働くと學校へ歸つてから耻しい」「何故です」「だつて私が女中にでも成つた樣ですもの」と返事しました、氣の毒なお雪さんですね、働くことが何で耻しいのでせう、働かずに暇人の眞似をする程耻づべきものはありません、何でも良い事ならば喜んで働く筈であります、是ではいくら高等敎育をお雪さんがうけても役に立ちません。決してお雪さんは惡い娘でありませんが、其友達に氣取やがありまして、其人は平素自分の家で、何もしないとか、獨で御湯に入らぬ女中に洗ふて貰ふとか、一寸御皿を洗つてみたら手の皮を剝たとか、同じ衣服を二年と着た事が無とか、法螺を吹くので、御雪さんは其友人を羨しくて堪らず、其眞似をしてゐましたのです、然れども此は惡いと先生に悟されてから彼女は一生懸命に單純と云ふ事や質朴と云ふ美しい方面に志して居ります。

私共は有るからと申して驕慢たり、無いからと申して愚痴をこぼして、外面を繕ふのは、いづれも醜惡いもので有ります、最と々々子供らしい、正直な、愉快な性質になる樣神樣の御助を願ひ自分で努めませう。少女方が、神樣に救はれると申すのは、自分の惡い癖などを直して戴くことで御座います、自由と云ふもかゝる性癖に打勝つことを申すのであります、人を使ふのでなく人に使はれるが偉大なのだと敎へ下さいました基督を常に模範いたしませう。



米國にて永眠されし高橋みつほ姉

大津の修養會に出席の姉妹方は札幌女子靑年會を代表されたる高橋姉を御記憶でしよう、眞に忠實な謙遜な御方で、熱心に札幌支部に盡力されました、今や彼は御國に在らせられます、爰に「雞」の記事を轉載して姉妹等に御報知申ます。

高橋みづほ姉米國に航し彼地にて二豎の犯す所となられし迄の經路を述ぶるは事實を綜核して諸報道を覽るに便ならんを思ひ先づ之を記さんに姉の北星校を卒へられしは明治四十三年三月にして同四十四年東京女子學院の高等科に入り翌年三月卒業爾後母校に教鞭を執り主に高等理科を修め之を卒へ同五年八月四日横濱港を解纜し北米合衆國南ダコタ、ヒユーロン大學の第二學年級に入り修學中同年十二月風邪に冒されしが原因をなし肺尖カタルを起し遂に翌年一月に至り肺炎に變じたるを以て病院にて治療を受け三週日にて一旦退院せられしも未だ全快に至らず治療の傍多少學業に親しみ居られし處俄然病革まり種々の手段を盡し且特殊病院（肺患者のみを收容する）の治療迄も受けられしが其かひもなく異域に於て他界の人となられしは惜みても餘あることながら其永眠は徒爾にあらずして各方面の人々に種々なる深き印象を與へられしを見れば神の攝理の幽玄なるに想到し感謝の念の禁ずる能はざるは我人ともに同じ心ならんかし。

姉の二月二十五日附の書狀先日退院したるも未だ全く恢復に至らず靜養中なるが今回の事に因り神の恩寵のいかに隆渥なるかを切實に經驗し又友人の情誼醫師看護婦の懇切殊に舍監スクベル氏の母にも勝る愛情には熱き感謝を捧げ居る云々

姉は此書狀を認めて後間もなく自筆を執る能はず他の代筆にて通信せられしが特殊病院同室患者の代り認めし書狀の端に「僅に一週日程の短き交際

に關はらず其信仰の高潔なる人格の圓滿なる曾て見ざる所なりとありたり

學長舍監及其他の書狀　病勢の一進一退恢復の遲々たるは土地氣候等の其身體に適せざる爲めならんとて學長始め同情者の配慮にてテネシー州メレヴエル大學に移さんとて已に其準備整ひたりしも尙五六ケ月は勉學を許さゞる容體にて遂行に至らざりしに病勢再び募り遂に急性結核症となりたるを以て保證人デート夫人の居住地附近の病院或はアリゾナ州デンバ市の病院など〻種々相談の末シカゴ市の病院と略決定せし處南ダコタのカスター病院却て可ならんとの醫師の意見にて愈其病院に入ることに決し交涉せしに入院申込者二十餘名もありて順番を待ちつゝあるに關はらず院長の好意にて特別に許可されしかば四月十九日ヒユーロンを發し翌日入院せしむるを得たり、されど此等の相談にて兩三日を費せし中に病勢頓に募りしかば院長は特別室に收容せり院長は に深き同情と注意とを以て日々の食事の如き患者の餘り洋食を好まざる樣子を見て態々シカゴ市とシヤドル市より日本料理を取寄せて給するに至れり、此の如き篤き手當の甲斐もなく六月三日頃より餘病を發し衰弱の結果意識明了を缺き賴み少くなりしかば同五日國井アキ姉とミスター、エヴアンス氏に電報を發せり、此電報に依り兩人は驚きと悲みとに充され各自の居所より翌六日第一列車にて出發エヴアンス氏は七日夜着直に病院に見舞はれしに姉は數日來昏睡狀態に陷り當日などは一食も取らず看護婦より給せし櫻實を僅に手に持ち翫弄せしのみなりしにエヴアンス氏の來訪に接し夢の覺めたる如く意識稍明了となり札幌に在るエヴアンス孃の父君なる爲めか非常に喜びエヴアンス氏が姉の爲めに祈を捧げられし時の如きは充分の發聲をなし得ざりしもエスの深き愛を感謝する意味をかすかに語られたりと、斯くて明る朝の三時に神の召に就かれたり。國井姉の方は汽車の便宜しからざる爲め途中より更に別の汽車に乘換へられしが生憎途中故障ありて延着し且つ

病院は停車場より二里程隔り居るを以て遂に生前に相見るを得ざりしは實に遺憾なりき、されど國井姉が病院に行かれし時遺骸は澤山の者にて守られあり院長は慈父の如く附添看護婦は母にも勝れる樣感ぜられたり云々。

遺骸は日本へ送還することゝならんとの見込にて永眠後直に防腐劑を施したりしが日本よりの返電に依りヒーロン大學に送られ同月十日午後四時同大學の講堂に於て學長ゲージ博士司式の下に最も嚴肅なる葬儀を營まれたり、國井姉の聖書エヴアンス氏の説教ゲージ氏の説教は特に會葬者を感動せしめたり、此際遺骸式場の出入は男女學生各六名にて勤められ棺は薔薇、百合、カーネーションなどの貴重なる多くの花環を以て飾られ又其棺はエヴアンス氏と國井姉の盡力にてカスター市にて最も美麗なる材料を選んで造られたり。

當時は卒業後にて學生は大概歸省し居りしが會葬の爲め態々出校し又市中よりも面識だになき人々まで會葬せられ無慮二百五十名餘に及べり、墓地までの見送人は百名餘にて自働車三十餘臺行列一哩も續けり。

學長の話に依れば姉が志を齎し遠く外國に來り不幸病に罹られしに同情し已に入院と決せし時知己友人は勿論其他の人々に依り寄贈を受けたる金額六百ドルに餘れる程なれば病院及葬儀等の費用に懸念を要せざりしは不幸中の幸にして之に依ても姉がいかに人に敬愛せられしかを知るに足らん。

エヴアンス氏云ふ「葬儀に際し悲痛の餘り説教し得ざらんを恐れ姉に依りて與へられし象徵を文に綴りて之を朗讀せり」と又「姉は醫師の見込なしと云ひしを知りつゝも倘神の惠を祈らんことを人より求められ又一面には此の苦しみより出でゝ神と共に在らんことを望める樣にて少しも心を後に殘す如き態度なく臨終の際には自分が傍に居るを喜ぶやうなりきされぱにや眠られし後の顏も生けるが如く笑みを含み頗る麗はしく苦痛の痕跡はあらざりき」

國井姉云ふ「附添看護婦が姉に對し、此の如き患者は凡て苦痛を訴ふるが常なるに關はらず高橋孃は何時も笑顏を以て人に接し疾患の其身にあるを知らざる如き有樣なるは實に珍しき人にて其信仰のいかに篤く忍耐のいかに强きかは想像し能はざる所なり云々」又四月初旬入院手續中暫時の間に步行困難となりし程病勢は急劇なりき又今回の葬儀にはヒーロン南ダゴタ兩市の人々より不思議なる程の同情を與へられ隨つて米國にても稀に見る盛大なるものなりきとぞ。

救世軍山室大佐の歐洲旅行談の一節として談られし事は、英國海峽を航海した時に自分達の乘つた汽船の左右に二隻の驅逐艦が始終護衞して英國まで伴て吳れた、船客は浮袋を身に纏ひ何時でも海中に飛込む身仕度をしたが大佐は詩篇の「我世に有る限は必ず恩惠と憐憫と我にそひ來らん我は永久にエホバの宮に住まん」との句を思ひ驅逐艦二隻を惠恩と憐憫との如く思ひ安心して熟睡したとの事である。

□會　告□

昨今本部事務所で更迭がありましたので事務上色々の間違を生じ、殊に雜誌の發送等に不堪洩落有之誠に相濟みません、何卒御遠慮なく御申越し下さい、又雜誌未納分を御請求申上ました處、皆樣は快く早速御拂込下さいまして誠に難有く御禮申上ます、若し間違ひて御請求申上たならば、必ず御知らせ下さいます樣御願申上ます。

又御住所や御姓が御變りでしたらば直に御一報被下度御願申上ます。

葡萄作りの話（續き）

袖山愛子譯

さつきからフォスチナと同じ道を歩んで居ました一人の女は市街の東都に連なつて居る小山を指差し

『彼方に橄欖の木の茂つて居る山の麓が見えるでせう、彼方にガリラヤ人がよく天幕を張るのですよ、あそこへ行つて聞いたら其豫言者について委しい事が分かるでせう。

彼等はうねりうねつた坂道を谷の底に下つて、それからまたエルサレムの市街へとシオン山を登るのでした、峻しい坂道に添ふて低い城壁がめぐらしてあります、その側には無數の乞食や片輪者が倚り掛り或はうづまつて居ます。女は其中の一人の乞食を指差して、

『まあ御覧なさい、ガリラヤ人が居ますよ、何だか私は此人を見た事がある、確かに此人は其豫言者のお弟子ですよ、此人はきつと其豫言者が何處に居るかを知つて居ます。』

フォスチナとサルビシャスは女が指差した人の許に來てよく見れば汚穢ろしい姿をした白髮交りの生ゆるにまかせた髭の茫々として、日光に燒けた顔の色は赤銅色になつて居る老人でした。別に放捨を願ふと云ふ樣子もなく、何だか大層心配さうに、四邊の通行人にも氣が付かぬらしく何か非常に考へ込んで居ますから、其でさつきからサスピシャスが彼に聲をかけても一向見向きもしません。

『一寸伺ひますが、若しや貴君はガリラヤ人ではありませんか？若し御存じなら、ナザレから御出になつた豫言者は何處に居られるか教へて下さいません

か」と幾度も幾度も繰り返して聞きました。
　ガリヤラ人は驚愕して急に氣が付いたらしく四邊をキヨロ〱見廻して一方ならずまごついた樣子でした。何を聞かれたのだかやつと其意味が分かると恐怖に震へながら怒り聲で、
『何だつて？　其の人がどうしたといふんだ？　己ら何にも知らないよ、己らガリラヤ人ぢやないんだ。』
　ヘブライ人の女も側から口を出し、
『だつてお前さんは彼の人と一しよに居たぢやないか、何も怖ながる事はないよ、こゝにお出になるのは羅馬の皇帝の御知己で御身分の高い老婦人なのだから、只何處にその豫言者が居るか知らせて上げればいゝのだよ。』
　わけもなく只恐怖に捕はれて居る老人は益〻怒氣を含み、
『誰も彼も皆今日は氣が狂つたと見える、惡鬼にでもつかれたのか。何だつてうるさく其人の事を己れに聞くのだ。その豫言者を己れは知らないといふのに分からないのか？　己れはカリラヤから來たのぢやない。己れは見た事もない人だ。』
　老人の怒つてわめく聲に城壁の側にうづくまつて居た乞食等も傍にやつて來て口を出し。
『お前は其豫言者の弟子ぢやないか。皆んなが知つて居るぜ、お前はガリラヤから來たんぢやないか。』
　老人は手を天に高く上げて叫びました。
『アヽ其人のお蔭で今日はエルサレムにも居る事が出來ない、乞食の中にも無事に居られない、何たる事だらう情ない。これ程己れが其人を見た事がないといふのにどうして皆は己れを信じないのだ？』
　フオースチナはいまはしげに肩をすくめ振り返つて
『サア〱行かう、此人は氣狂なのだらう、こんな者に聞いたつて何にも分かりやしない。』
　フオスチナの一行は尚も山を登つて、丁度街の門の二三間手前まで來ますと、さつきから親切にも一

所になつて豫言者を探して呉れて居たへブライ女は一寸フオスチナに注意をしましたので馬をとゞめて見ると直ぐフオスチナの足下に一人の男が仰向にひつくり返つて居て、そのまわりに大勢人がたかつて居ます。的度もなく空の一方を見詰た眼をぱつちりと開き、身動もせずにぢつとして居て大きな駱駝が重い足で踏み付けるのをまつて居る樣に見えます。身には襤褸をまとゐ、然も砂塵と埃とにまみれて居ます。實際彼は馬の蹄にかけられたくて態と砂土の中に身を埋めたのでした。

『一體どうした譯なのですか?』とフオスチナは尋ねました。すると急に其人は通行人に向つて大聲で叫びはじめました。

『あゝお前さん方一思に儕の身體を馬の蹄にかけて踏み殺して下されや、除けて通らねえいで、アヽ踏み殺されたいのぢや！無垢な血にそむいた罪どうしたらよかろう、アヽ踏み殺されたい！。』

サスピシヤスはフオスチナの馬を人込みからよけながら、

『此人は何か心にかゝる罪を犯した人と見えます。それであの樣に後悔して居るのでせう。あんな者共にかゝはつて居た日にや旅がおそくなります。サア早く參りませう。

取圍んだ彌次馬は中々其處をはなれません。仰向に寢た人は益々大聲で、

アヽ踏み殺して呉れ、駱駄の足で一思ひに、僕の胸を驢馬の蹄で眼の玉もかき出してくれ！

フオスチナはどうかして此人を助け起して遣り度いと其場を立去り兼て居りました、

ブライ女は側から、

『此人もあの豫言者の弟子ですよ、豫言者の在處を聞いて見ませうか?。』

フオスチナはうなづきました。女は近付いて男に向ひ、

『ガリラヤの人達は一體今日はどうしたといふか?お前さん達の先生はどうかしたのかえ? 彼處此處

に道端だの街中でまご／＼して居るが、一向先生に逢はない、一體何處へ行かれたのだえ。』

此言葉を聞くや否や今迄地上に仰向に寢ころがつて居た男はむつくりおき上り畏こまつて座り込みまして力ない聲で怨しげに、

『何の恨みがあつて儕にそんな事を聞きなさるのぢや、儕は踏みつぶされて死なうとして居るぢやないか？　それでもまだ！　殺しても飽き足らないと思つて居なさるか、執念く儕のした事を攻めなさるか？。』

ヘブライ女が繰り返して前の問をかけますと男は急にブル／＼身を震はせて手で耳を覆ひ、

『何たる無情な人達だろう、死ぬ事さへも平和にゆるして呉れないのか』男はよろめく足を踏みしめて立ち上り、人垣を分けて恐怖に震きながら走り出しました、彼の千切れ／＼の襤褸は黒い羽の様に風にゆれてヒラ／＼ぶら下がつて居ます。（つゞく）

渡米者の栞（西洋禮法つゞき）

河井道子

西田夫人「小言の言ひ終りと思ひ、もう一つ御聞き下さい、それは明後日の上陸心得です。

三人「丁度伺ひ度と思つて居りました。

夫人「明後日は多分船が午前中に着きますから荷物の仕度をなさいませ、蒲團と毛布は手荷物と一所に天使島に持つてお出でなさい。

な ほ「天使島とは如何な處ですか。

夫人「そう／＼これをまだお聞かせ致しませんでしたね、天使島といふのは日本譯で英語ではエンセル、アイランドと云ふ移民局です、其處へ二等三等の船客は皆健康診斷やら身元調にどうしてもやられる處です。

せい「何だか恐い處では御座いませんか、御役人は西洋人でせうね英語が話せないでどう致しませう。

夫人「そんな御心配は入りません、西洋人で日本語のよく分かる人や、日本人で英語のよく話せる人が居りますから大丈夫です、狼狽しないで落付いて好く御聞きなさい是が最も大事な事ですから。

三人「ハイ承知しました。

夫人「皆樣が大きな荷物があれば、それは税關の方に上げて後から受取れますから御心配は入りません。部屋に在る品はみな手荷物にしてエンゼル島へ持つて行くのだとして置きなさい。

なほ「蒲團や風呂敷包を皆な一人で持つて參られませんが如何致しませう。

夫人「そんな心配も入りません、自分で持てる物丈け手に提げ整然として持てぬ物丈は名札を付け出す樣にしてあると後は船の人がして呉れます、只部屋に忘れ物のない樣に氣をつけなさい、決して船から何町も歩くといふのではないので此本船から小蒸汽船に移されて移民局の庭迄それで行くのです。

せい「着物は如何致しませう。

夫人「おまささんは洋服を調らへたのでしたね、お二人は日本服の儘でせう。

三人「左樣で御座います。

夫人「洋服の着方を御手傳しませうか、一寸着けて御覽なさい、日本服なら整然と袴を着け羽織を着るなり帶を結ぶなりして、何時も云ふ通り脛の出ない樣に白い靴下を穿いて、それを落ちない樣に靴下止で留めて其上に淸潔な足袋を御穿きなさい、之は呉々も忘れてはいけせん、帶をしめるなら大きな帶上げは反つて笑はれます小さく整然と結んで出るが宜しい、頭も小整然と小美麗に御結びなさい、白粉など付ける必要はない、只爪の先に黒々と垢など付て居ないで一寸見られても淸洒して淸潔に思はれる樣にして居るのが大切です、何も裾模樣を着たり紋付を重ねたりする要はないのです、手巾は淸潔な白いのをお持ちなさい、それから旅行免狀と良人になる人の寫眞、其人達からの證明書、何んでも斯う云ふ書類は一纏めにして小さい包にでもして何時でも見せられる樣にしておきなさい。

斯く語る内に淸水まさは洋服を着け甲板に昇て來ました。至極質素な洋裝でも流石西田夫人の世話せし甲斐あり、樣子といひ着工合といひ見事でありました。

友人二人は之を視て。

二人「まあ好く御似合ひなさる事。

まさ「似合へば本當に嬉う御座います、奥樣の御蔭です。

夫人「洋服を着て左樣に屈んではいけません、ピンと直立て御いでなさい、左樣かといつて人形の樣に固くなつてはいけません、腹部をそう突出さないで、丁度顎と爪先が一直線になる樣に立つのです。歩くのも中輪にしてはいけません、草履を穿いて居る時の樣にペタ〳〵平く歩いたり足を摺つたりしないで爪先で歩く樣に努めて御覽なさい。

まさ「何も六ケ敷もので御座います。

夫人「日本人の洋服を着て歩くのはどうも足下が重々しかつたり、どし〳〵したり踵許に力を入れたりして見苦しう御座います、

斯る事もおぼえると好いでせう、未だ二日ありますから精勵と歩く稽古をなさいまし。

なほ「奥様最早これで悉皆心得を御習ひしたので御座いませうか。

夫人「今迄申した事を皆覺えていらしたらまあ大丈夫です、も一つ餘り尾籠な御話ですが申して置き度のは西洋便所の事です、米國では極田舎で無い限りは、何處の家へ行ても水で洗す樣な仕掛けになつて居ります故、決して紙屑や綿、髮毛等を其處へ投げてはいけません、左樣すると管が詰まつて大事になります、汚物は紙に包み捨てる樣に確乎能か箱がありますし、無ければ一寸尋ねる事は失禮でないのです、之はよく御互に知つてないと迷惑を掛けます。序に風呂の事を一つ申し置ませう、日本のと之れも違ひますから御湯を浴槽の外へ汲出してはいけません、槽の中で石鹼を使ふのです。

せい「水が直に汚ますではありませんか。

夫人「汚れましても、大勢で這入るのでないから結構です。

なほ「一人づゝ入るのですか。

夫人「然うです、他人に肌を見せたり、裸體を見られたりは決してせぬ事になつて居ます。

まさ「湯屋は御座いませんか。

夫人「有りましても日本の湯屋と違ひ、一人宛入るのでなかなか御金もかゝります、大概の家に風呂がありますが、日本人の多勢ゐる處では市だと、湯の看板をかけてある處もありますが、中が如何なつてゐるか私は知りません。

せい「田舎では何うします、小さな家なら、湯殿もある筈がありませんから困りませう。

夫人「日本人は矢張り自分達の家で、日本式の風呂を建てゝ居ります、是は勿論田舎で百性などする家庭の事を申のです、西洋の人もなかなか入湯ます、田舎で風呂のない家もありますが、朝晩よく全身を拭き、下着をよく洗ひますから清潔です、皆さんも若し風呂がない時は決して不性にして居らないで、良く拭き、下着を洗濯なされば、其方が日本式の幾人も這入た汚ない風呂よりも却つて清潔です、兎も角、若しも西洋風呂ならば、一々水なり湯なりと替へて這入るので、水を槽の外に掻出さぬことゝ早く出る事を覺へておいでなさい。

さい「二三十分位ですか。

夫人「其麽に永くては大變、十分十五分が關の山です、天使島では日本人の爲め特別湯殿を拵へてくれましから、數名宛這入る事も出來るさうですが、大勢故一組が二三十分も取ると皆がもう、這入る時がなくなるとて、係員が困つて居られました。

なほ「天使島の事が心配でなりません。

夫人「其心配は無用、女の係員が皆親切です、日本語の出來る御方も其中には居られます、日本婦人で通辯なして下さる方も居られます、又其上に何か助けて貰ひ度い事か、教へて貰ひ度い事がありますならば、基督教女子青年會から、エリス女史と申す方が、同島に何日も御出張てすから其方にして貰ひなさい、此方は東京の某女學校の教頭を永くして居られましたから、日本語も上手で、日本人を大層御好きな親切な女の先生です、此方に御はなしなして、わからない事は御尋ねなさい、よく世話して下さいます。先達の御手紙にエリス様が二ケ月間に御世話をして下さいました日本婦人は三百人以上だとの事です、米國政府でも此方を信用して居られます。

彙報

東京基督教女子青年會

東京青年會は希望に滿ちて賑々しい初秋を迎へました。新にミス、アルチン幹事を加へられ、暫時御歸省中のミスカフマンが再び御働き下さいますし、十月には新體操敎師を米國より迎へると云ふので共働者の數が益々增加したので非常に感謝して居ります。多く與へられたるものはなほ多く與へと云ふ御敎訓に從ひ大に充實したる活動を見たいと希望してます。

新計畫事業（一）英語科　を初等科、普通科、高等科、會話專修科に分ち、從來の敎師ミス、イーストレーキの外ミス、アルチン、本部幹事ミス、クローフォード、ミス、ニクソン擔當せらる。（二）西洋料理科、從來の組の外新組を開く、火曜日午後一時半より、ミス、パタラン擔當。（三）唱科の組、ミス、シエレシエスキー、水曜日午後四時半より五時半迄、ミス、オルチン（新組）水曜日午後六時半より七時まで。（四）家庭衞生講習會、ミスパタソン擔當通譯づきにて十月第一金曜午後二時より開始す。日常生活上婦人として心得置くべき生理衞生等の講義なり。早く御申込みを歡迎す。（五）聖書の組、今年夏期修養會に出席せし有志姉妹等の發起にて新らしき二組を開始す。一は高等師範學校生徒水曜日午後三時半敎師ミス、ペーチ、二は御茶水高等女學校生徒の組火曜日午後三時半敎師谷岡貞子、現今聖書の組總數は廿一なり。

「世界めぐり」　今年は例年のバザーに少々趣きを變へ、居ながらにして世界諸國の風俗を見、めづらしき音樂をきゝ、名物を購求し得らるゝと云ふ仕組なり、場所本會館、時日十月廿日土曜日午後中、會費金廿錢、昨年のバザーの大成功を再び思ひ起して感謝すると共に今年も又た會員姉妹等の一層の御力を得て大なる良き結果のあらむことを期して準備中なり、よき思ひつき等御知らせ下されば幸甚、なほ材料費豫算が多く要することゝ思ひますが皆々樣の御

寄附を悦むで御受け致します。

□盛岡青年會

九月九日午後　修養會に列席した會員各自の報告及所感を語り大に益する所がありました受けた數知れぬ恵を如何に用ひませうか、會に對する各個人の責任を強くされた私共の心に今漲て居る感謝の意と又決心を強くする爲一筆書き列べました。

佐藤みさを

基督教の徽章は互に相愛すべしとの先生の御言葉に依り深く感じました、此美を現し又是により世の光となり神樣の御恵に小ながら御奉仕致し度と思ひ努力して居ります。

太田郁子

奉仕とは青年會の主義と伺ひましたが會員は時折此精神を忘れて不平を言ひつゝ働きました、此度此精神を心に挾み會の爲友の爲盡す心掛けです。

佐羽内　よし枝

修養會へ初めて出席致し新しい感を與へられました、而て小い乍ら私の存在を自覺致しました、何卒青年會の車として働き度と存じます。

照井きよ

仙臺の修養會に出席し初めて御會ひした先生方から凡ての方面に御親切を戴きました、感謝に堪ません、斯く迄多くの青年方が會の爲御働きになつて居る事を眞に悦びます。

吉野さかえ

祝福された修養會に臨み皆樣の甲斐〲しき御働振には驚きました、以後私も皆樣の如く熱心に又强く立ち神の榮を心より現し度と祈り働いて居ります出席出來なかつた諸姉特に星川姉の爲祈ります。

ともがき

神戸　米澤尚美

過日は心待ちに致し居りし雜誌早速御送り下され有難く拜見致しました一部は此六月に渡米致せし妹に早速送りました、私事神より與へられし此休中に色々の書物を通して神との接觸をいよいよ密接に

父神に對する信頼を深められました神が其御旨のまゝに我々と共に働き給ふ事を感じました神との結交は眞正の意味に於て人生自然の生活の樣に思はれます、アブラハムが其愛子を祭檀の上に捧げつゝ絕望の中にもなほ神によつて安んじて居りし如くに神を信頼し全能の支配の力を信じ凡ての事にも誤りなき神の愛を信じて淸き神との交りを深く結び度いと存じます私共は獨りボッチでなくて神共に在すの念を深くせられました神との關係が密接であればある程高き所に引き上げられ淸き信仰生活を致して居るのであると存じます、活動致すべき秋がおとづれましたと同時に神共に在す信仰を持て向上發展を致し川來る丈淸き信仰生活を致し度いと存じます終にのぞみまして神の御守りが靑年會事業の上と先生始め皆々樣の上に常にあらん事を蔭ながら祈つて居ります。

神戸　増井花江

朝夕餘程涼しく望に充ちたる新學期と相成候本日靑年會雜誌を通じて仙臺の修養會御有樣をも想像致し得る實に惠に充ちたる盛會と喜ばしく存じ候益々我等の屬する靑年會の日本に於て否世界に有益なる機關とならん事を祈り居候當校にても何か有益なる働を今秋致し度候皆々熱心に考へ居候若し先生にても今秋神戸附近の方へ御出下る事を得ば如何に幸と存じ居候何か其御考へ之無候や。

陶山よね

上野さんの美しい感謝の生活には動かされざるを得ないです同氏に數へられる事が澤山あります之には如何しても最ともつと神に眞面目に祈る事を日々努めればなりません私は殊にさうです實際自分を省みる時に決してベストを盡してゐません凡ての事に全力を注いでゐません必ず益々努力しなくてはなりません、津山には赤痢の上に又虎列剌が入つたとの噂です併し赤痢は段々少くなつて居ます早く思ふてゐる女工の働を助けたいもので御座います何か働を與へて下さい近頃諸所の教育者中宗教に付き面白い意見が漏らされます即ち宗教其ものは善に相違ないが平生は不用なもので急な場合に要るものだ順境には要らぬものだから子供には要らぬといふ論なさうで日本國民の爲悲しまねばならぬ意見と存じます。

葛山喜代

今夏の修養會に御出席遊ばされし方々の御感想其會にて得し賜物御決心殊に河井先生の無意味空漠ならざりし御講演を伺ひました時皆樣の御活動振りを拜せし時自分は今迄は本當に何をして居たのであらう全く眠つて居た信仰は零度になつてまた事を自覺し我ながら恥かしく思ひましたと共に今後は一層に努力し殊に前よりも餘計に神樣に御依頼して今自分が決心してる事を斷行致さうと思ひました殊に結婚前に斯樣なお教を賜はつた事を深く感謝致して居ます甚麼事が一身上に起つて參りましても如何なる場所に參りませうとも死に至るまで私は女子靑年會とはなれず常に結合つて參り度いと存じて居ります、靑年會の聖書の組お料理の組又開かれた英語の組へも參り度いと存じて居ますそして他を導く上に家庭を造る上に自分を修養して行かうと決心して居ります。

名古屋　寺内ぶん

今度藤田まさ子樣當金城女學校に御轉任相成私も嬉しく只今よりは同じ目的の爲に働くべく互に力を合せて事に當り度存候御會は日に月に御發展にて此度は大阪に支部を新に設けられていよいよ御活動

の御樣子何よりと遙に御悦び申上候主の十字架に立つ丼日々々少しづゝにても御足の跡を深くし得ばとそれに努力致候此秋は聖書の硏究を始めからやり直しを致し度存候、私事此夏には祖母の死に遭ひ母の病などにて深き悲しみの內に新しき經驗を味ひ自分の計畫は凡て打破られ候へども神の備へ給ひし不意の出來事に依り計畫通に暮した以上の事を學び得て今は凡てを感謝致居候。

鹿兒島　靑山英

何よりも樂しみに待つて居りました雜誌が今月は先月分とも受取ました本當に嬉しく存じました私はもう御緣がなきものかと殘念に存じて居りました折柄一しほ感謝して拜見致してをります、先生方は夏の休暇にも御爽かに仙臺神戶に御働き遊ばされ嘸かし御疲れ遊ばされました御事と遙かに御察じ申上げて居ります鹿兒島が今少し御近き處ならば先生方を御迎へ申上げて御慰め申し上ぐるに好き土地に御座いますが殘念に存じます會友の大西靜子樣はすぐ御近くに御住ひ遊ばされますので朝夕お目にかゝります娘と同じ學校に奉職遊ばされますので尙更他人の樣な感じが致しません敎會は私と同じ處で誠に幸福で御座います。

幡谷　菱沼しけよ

松島で突然靑年會の方々に御逢ひ致し誠に嬉しく存じました、修養會の方へも是非出席し度いと存じて居りましたが三十一日迄學校があるので駄目で御座いましたにも拘はらず御目にかゝる事が出來て誠に感謝に堪えませぬ、私は昨年十二月迄仙臺東六番丁の敎會にお手傳を致して居りましたが辭令で此幡谷といふ田舍へ赴任致しました三學級(百五十人許り)の尋常小學校で御座います、松島停車場から一里許り山奧の丁度鹿島臺との中頃品井沼の湖畔に御座いますまだこれまでに誰も神樣の事を傳へた者がなかつたと見えまして土地の人達は何も知りません赴任早々校長から全く眞面目でサンタクロスといふのは何ですかと聞かれましたそれから私は有らん限りの智慧をしぼつて說明致しました、日曜に小兒等を集めて讃美歌を敎へお話を聞かせたりして日曜學校を開き度いと存じまして他の先生にそれを申しましたところ訓導となつて敎育事業にたづさはつて居ればさういふ事をしてはいけないど申され只二三の小兒などのみ集め折を見ては神樣の事を傳へてまります。

會告

○松宮のぶ子氏　永らく本部の事務を忠實に執られしが九月廿四日外山勝夫氏と結婚の盛典を擧られたり、暫く外山氏の鄕里九州に御旅行の後東京芝區高輪邊に住居され今は間接に本會を助けらるゝ事となりたり、後任者未定

○小篠端子氏　東京女子靑年會に永らく執務されしも來る十月六日東京麻布美以敎會にて大森盛太氏と結婚式を擧行され直に千葉に御住居さるゝ事なり

○中西司那子氏　女子英學塾學身にして今回小篠姉の後任として東京靑年會に事務を助けらる

○ミスグリン　九月より橫濱女子靑年會の幹事として赴任されたり同氏の母君は米國にて御病氣なれば諸姉の祈禱を願ふ

○ミスハード、ミスエマソン　兩人は大阪女子靑年會開始の爲め該

地に赴き□り、借家を探す間は廣岡御夫人の厚意にて同家に滯在のことゝなれり

○ミス、オルチン　音樂部の教師として東京横濱兩青年會に九月より就職さる、同氏の御兩親は大阪に永住さるゝ組合汎宣教師オルチン夫妻なり

○新幹事來朝　二名の新幹事ミスニクソン、ミスクロフオドは九月十八日上陸、二ケ年語學研究

會友、個人、教會消息

○長谷川喜多氏　東京麻布富士見町廿六番地に轉居

○鈴木歌子氏　東京青山原宿百四十三番地に轉居

○小此木松子氏　八月下旬、辻高衡氏と結婚され目下東京府下千駄ケ谷三百八十五番地に御住居

○葛山喜代氏　上京され府下戸塚町諏訪六番地吉岡氏方に寓居

○藤田まさ子氏　今秋より名古屋金城女學校に御轉任

○中村艶子氏　今年春男兒御分娩、益々御壯健にて近日中に臺灣に赴かる由

○山室軍平大佐　九月十八日無事御歸朝、廿日の夜大歡迎會ありたり、氏の活動益々旺なり、太平洋沿岸三千數百哩を十四日間に旅行して四十數回の集會を催され信仰告白者八百人以上を得られしとは驚嘆に餘あり

○新渡戸琴子氏　九月廿九日信州輕井澤御別莊にて新渡戸孝夫氏と御結婚

○千葉品子氏　十月下旬御結婚のよし

○巖本氏　暫く横濱女子青年會にて外國の風習研究中なりしが、九月十九日米國に御出帆、井出菊惠姉と同校にて御勉學になるよし

安藤紀念教會献堂式

日本禁酒會會長安藤太郎氏邸内新設の安藤記念教會献堂式は十五日午後擧げられ嚴肅で感激に滿ちた集りであつた會堂は石造で工費約一萬圓總て安藤氏の獨力經營である氏は人も知る熱烈なる基督教信者で三十餘年間夫人と共に傳道に努め其傍ら禁酒會を起して道の爲酒の害を說き今では日本唯一の會とされたが氏は元大飲酒家であつたのを夫人の熱情から禁酒を斷行するに至つたのは世人の識る處である其夫人の一昨年永逝後氏の信念は益々堅固に本年の紀元節に住宅を講議所とされ此會堂を新築になり尚今後も益々傳道に有形無形に於て全身全力を盡さる

日本基督教青年(男子部)同盟事務所落成式

九月廿四日同所の獻堂式を神田表猿樂町十番地にて擧行す、基督教に關する諸事務所は此建築物内に集まりて非常なる便宜なり

靈南坂教會落成

新築宏壯なる同教會は九月二十九日獻堂式のある由工事費は七萬以上にして數千圓のパイプオルガンも備付け、納骨所も設けられ、日曜學校教室等皆最新式なりと、各派信徒は滿腔の悅と祝とを呈するならむ

○修養會寄附金領收（續）

金貳拾圓也　志立たき子
金拾圓也　小池實惠　加藤高子
新渡戸稻造　松宮のぶ子
渡邊百合
金七圓也　星野愛子
金五圓也　松宮信子
金四圓六拾錢也　河井道子
金參圓也　宮川幹枝　中路らか子

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓五拾錢
浅井治子（大正六ノ一—十二）中村つや（大正六ノ九—七ノ八）
八木順子（大正六ノ一—十二）
金參圓也
水野萬壽（大正六ノ一—七ノ十二）サオライネン（大正六八—七ノ七）
金貳圓也
河井道子　フイシャ夫人（大正六ノ七—七六）
金壹圓也
安東靜子（大正六ノ十—七ノ九）長谷川淑子（大正七ノ一—七ノ十二）
金壹圓貳拾錢也
岡田美喜（大正六ノ六—七ノ五）守屋正、綱代周、小林靜子同上
金六拾錢也　青地みつ（大正六ノ十二）

○雜誌「女子青年界」代金領收

金八拾錢也
吉田松代（大正六ノ七—七ノ六）河井幸（大正六ノ九—七ノ八）
下里ひな（大正六ノ十—七ノ九）佐藤シゲ（大正六ノ九—七ノ八）
松本千代（大正六ノ四—七ノ三）溝口かつ（同上）
小野晶雄（大正六ノ九—七ノ二）清水みづえ（大正六ノ九—七ノ八）
種子田米子（大正六二十—七ノ十）渡部千菊（大正六ノ十—七ノ九）
島村清子、松本千代子、佐藤しげ子、溝口かつ子、石原アイ（一ヶ年分）
金壹圓六拾錢　安羅岡むら（大正五ノ七—七ノ六）
金六拾圓　サクラメント女青會（大正五ノ四—六ノ五）
金九錢也　澤田清（大正五ノ九—大正六ノ十）
金壹圓六拾錢也　井口やめ（大正五ノ四—大正七ノ三）
金貳圓五拾六錢也　遺愛女學校

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税	一部	一年前金
內地	金八錢	金八拾錢
海外	金拾壹錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正六年九月廿八日印刷納本
大正六年十月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIV | OCTOBER, 1917 | NUMBER 9

On September 13th Miss Emerson and Miss Hard left Tokyo for Osaka to begin association work there. They are staying temporarily at the home of Mrs. Kame Hirooka until they can find a suitable house. We have been trying for seven years to respond to the appeal of the Osaka Christians to begin this work, and are more than happy to do so now.

Miss Elsie Greene has taken up her work as Associate General Secretary in Yokohama. With her is living Miss Mary Foll, who was once an association secretary in San Francisco. Regular association classes have been resumed, and the emigration work is, of course, being continued. In addition the association is prepared to accommodate foreign guests with board and room at reasonable rates. Miss Mollie Baker, General Secretary, is expected back in Japan early in November.

Miss Inez Crawford and Miss Esther Nixon arrived from America on September 18th. They will be appointed for language study and afterwards to association work. Miss Agnes Allchin, who has been a teacher in the Baika Jo Gakko, Osaka, is to do student work in the Tokyo and Yokohama associations during the coming year. In addition to these new secretaries who have already arrived, we expect Miss Ethel Fonda, Physical Director, early in November.

The house at No. 2 Sanchome, Sadowaracho, Ushigome, Tokyo, which has been built by Miss Kaufman as a secretaries' residence is now being occupied by Miss Kaufman, Miss Page, Miss Patterson and Miss Allchin. The other secretaries resident in Tokyo are living at 12 Sanchome, Tamachi, Ushigome.

On Saturday, September 29th, a welcome meeting for Miss Greene will be held at the Yokohama Y. W. C. A. Mrs. Stuart Burgess, who arrived from America last week, and who is visiting her mother, Mrs. C. H. D. Fisher, will speak on the Activities of Women in America at the Present Time. All the association members and their friends are invited to be present.

The Tokyo Y. W. C. A. has opened its autumn schedule with 21 Bible classes, 2 English classes meeting three times a week, 2 cooking classes and one home nursing class, each once a week, 1 gymnasium class twice a week, 1 shorthand class twice a week, 1 flower arrangement class, 1 music class and one choral class. On the third Saturday of each month a party is held for the members of all classes and on the first Sunday afternoon of each month a general prayer meeting for all members. On Sunday, September 16, the opening meeting of the autumn was held. Miss Kawai spoke and sixteen girls reported on the Summer Conferences. In spite of the rain 130 girls were present at this meeting.

On October 20th an entertainment, known as the Carnival of Nations will be given at the association building 14 Kita Jimbocho. There will be exhibits representing the customs of different countries and a sale of souvenirs from various places. The articles for sale will be suitable for Christmas gifts. During the afternoon programs will be given at two and four.

On October 17th there will be an all day bazzaar in the Yokohama Y. W. C. A. for the benefit of the association work.

後付一

大正六年九月廿八日印刷納本　大正六年十月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可